

# 総特集 / 地域における公益的な取組 2021年度実施状況



平成28年度改正社会福祉法において、すべての社会福祉法人が「地域における公益的な取組」を実施することが明記され、当協会においても地域共生社会推進活動の柱のひとつとして、地域共生社会推進センターを設置し、各事業拠点において積極的に取組を進めています。

6月に、昨年度の協会全体の取組状況を集約しましたが、今号ではこの集約結果から見てきた取組の状況を紹介します。また、特徴的な取組を展開している事業拠点にインタビューを行いましたので、あわせて紹介します。

## 【全体傾向】

2021年度も、企画されたもののコロナ禍のため実績なしとなった例が見られましたが、取組の総数が大きく増えたことにより、実績数も増加しています。なかでも、法人内の複数の事業拠点が連携している事例や、他団体等と連携して取り組まれる事例が増え、前年度と比較すると、創意工夫しながら取り組まれているという結果となっています。[2面に一覧表]

## ■取組状況

事業拠点の種別でみると、施設と児童館ではすべての事業拠点で何らかの取組が行われていますが、居宅では取組状況にばらつきがみられます（施設12/12、児童館4/4、居宅本部も含む居宅11/16、合計で27/32）。何らかの取組を企画している事業拠点は、前年度に比べて増加し、全体で84%の事業拠点等で企画されています（2020年度の集約では合同実施分を含め13事業所18件、41%でした）。

## ■取組件数

企画された取組の総件数は、48件となっていますが、コロナ禍のため4割程が実施できておらず、実績としては29件となっています。2021年度は新たに7件の取組が企画され、5件の実績が報告されています（うち2件は「こども110番の家」の登録等に対応実績なし）。また、以前から取り組んでいたものの、これまで報告がなされていなかった取組について今回新たに報告があったものも含まれています。

## ■取組内容／類型別

前年度まで5か所の施設で取り組まれていた食堂事業のうち、今回の集約に含まれていないものもあり、コロナ禍での食社会

の取組の困難さをうかがわせる結果となっています。

社会福祉法に基づく現況届における取組類型でみると、実績件数は次のとおりでした。

類型⑥ 地域の福祉ニーズ等を把握するためのサロン活動	4件
類型⑦ 地域住民に対する福祉教育	6件
類型⑧ 地域の関係者とのネットワークづくり	7件
類型⑨ その他	12件
	計29件

類型の①地域の要支援者に対する相談支援、②地域の要支援者に対する配食、見守り、移動等の生活支援、③地域の要支援者に対する権利擁護支援、④地域の要支援者に対する資金や物資の貸与・提供、⑤既存事業の利用料の減免、免除、については該当がありませんでした。なお、今回の集約では、配食サービスで、社協委託分以外に独自に低額で提供している事例や介護保険サービス利用料の社会福祉法人減免等の事例が除外されているので、実数についてはさらに増える見込みです。

## ■法人内連携

今回の集約では、協会内の事業所の連携で取り組まれているものが、5件ありました。このうち2件は新規に始まったもので、コロナ禍にあっても、連携して、工夫を凝らした取組も見受けられます。

## ■外部団体等連携

多くの事業所で、外部団体等と連携して取り組んでいるものもありました。特に、他の団体等が主体となって取り組まれているものに連携するという形のものが多く見受けられました。

# 「地域における公益的な取組」 実施状況報告書【集約版】から

2021年度 地域における公益的な取組一覧

事業拠点	取組名	実績有	実績無
1 居宅本部	迷い人発見協力事業	●	
2 北事務所	「こども110番の家」の登録		○
3 北事務所	「生き方探求・チャレンジ体験」推進事業		○
4 高野事務所	認知症カフェ	●	
5 高野事務所	山間地へのヘルパー派遣	●	
6 西七条事務所	「下京署安心安全スマイルUP隊」への参加	●	
7 南事務所	ラジオ体操	●	
8 ナイト南			
9 ばあとなあず南			
10 南事務所	ながら見守り活動 こども110番	●	
11 ナイト南			
12 ばあとなあず南			
13 醍醐事務所	健康講座	●	
14 醍醐事務所	災害研修	●	
15 醍醐事務所	地域団体合合に場所を提供	●	
16 太秦事務所	こども110番の家		○
17 西京事務所	西京区「花いっぱい」運動への参加	●	
18 西京事務所	こども110番の家 登録		○
19 西京事務所	「生き方探求・チャレンジ体験」推進事業へ参加	●	
20 人材開発部	高校生ための介護初級講座	●	
21 紫野施設	はっぴーホッピー紫野		○
22 紫野施設	災害発生時及び福祉避難所開設運営訓練		○
23 紫野施設	紫野小学校区地域見守り活動	●	
24 小川施設	コーヒーにこだわる男のサロン（珈琲男団）	●	
25 小川施設	上京エールレター	●	
26 小川施設	ベンチ置くだけプロジェクト（置きベン）	●	
27 本能施設	地域カフェ（IDOBATAカフェ、えんがわカフェ）	●	
28 本能施設	本能食堂		○
29 修徳施設	修徳カレーの日		○
30 修徳児童館			○
31 西七条施設	西七条音楽祭		○
32 西七条施設	七条第三小学校3年生総合学習	●	
33 塔南の園施設	小学校の総合学習授業（九条塔南小学校4年生）	●	
34 塔南の園児童館			
35 南事務所			
36 久我の杜施設	ふれあい教室	●	
37 久我の杜施設	将棋の集い		○
38 久我の杜施設	編み物教室		○
39 久我の杜施設	太極拳	●	
40 久我の杜施設	つながりシネマ		○
41 久我の杜施設	地域セミナー		○
42 久我の杜施設	てくてく散策会	●	
43 久我の杜施設	小学生高齢者体験・認知症サポーター養成講座		○
44 久我の杜施設	久我の杜地域活動委員会	●	
45 西院施設	おいでやす食堂	●	
46 小規模おがわ	要生活支援者の見守り活動の参加		○
47 小規模やまの家	つながり食堂		○
48 小規模みささぎ	フリースペースみんなの家山科		○
49 地域密着SC桂坂	交流スペース地域活用		○
50 地域密着SC桂坂	洛西支所事業者等連絡会準備委員会	●	
51 明德児童館	防災演劇WS・防災演劇発表会&体験会	●	
52 錦林児童館	おもてなしプロジェクト	●	
53 修徳児童館	プレイス〜いのちを考える1時間〜	●	
54 修徳児童館	にじいるマルシェ（にじいるマルシェスペシャル）	●	
55 塔南園児童館	2525（ニコニコ）カフェ	●	
56 塔南の園施設			

  

部門	事業所・拠点数	取組数	法人内連携の有無		2021 実績有	2021 実績無
			単独	合同		
居宅部門	16事業所	21	14	7	17	4
施設部門	12拠点	28	25	3	14	14
児童館部門	4児童館	7	4	3	6	1
合計	32か所	56	43	13	37	19
実数（法人内の合同の取組件数調整後）		48	43	5	30	18

実績については、事業拠点として能動的な活動を行ったものに限定しており、何らかの活動を行う事業所として登録していても、その結果として能動的に対応する事例がなかったもの等については、「実績なし」として扱っています（「こども110番の家」等）。

## 事業拠点に聴く公益的な取組① 高齢者福祉施設 小川

### 珈琲男団・置きベンチプロジェクト+オレンジガーデニングプロジェクト

取組の概要やアイデアについて、高齢者福祉施設小川(以下小川)の中島施設長(左)を取材しました。

インタビューの場所は、小川の建物前に設けられた「置きベンチ」。

新卒採用職員の近藤ケアワーカー(右)もインタビューに参加しました。



#### ◆珈琲男団(取組番号 24)



上京区の社会福祉協議会が主体となり、男性の居場所作りとして始まったこの集まり。同じ趣味を持つ人たちがコミュニケーションをとり、大好きなコーヒーについて学び、誰かのためにコーヒーを淹れるというものです。

現在、毎月第1火曜日の10時から12時まで、小川の駐車場で地域の方々に、一杯100円でおいしいコーヒーを提供しています。

#### ◆置きベンチプロジェクト(取組番号 26)

上京区にお住いの小畑さん。『対話の町京都ヲ目指す上京』を目指して、区内に複数のベンチを設置しています。老若男女問わず、いろんな人が利用することで、「上京区のあちらこちらで対話する人たちの声が飛び交い、温かい関係になれたら」そんな思いを込めて、ベンチを作っています。

今では、ベンチを置きたいけれどスペースがない、という声にこたえるべく、せせらぎ木工さんと一緒にひとり掛けも制作中。どんどん、置きベンチは広がっています。



#### ◆オレンジガーデニングプロジェクト

「認知症になっても暮らしやすいまちをみんなで作っていきましょう！」という思いを共有しながら、9月の世界アルツハイマー月間にオレンジ色の花(マリーゴールド:花言葉は変わらぬ愛)を咲かせるこの企画。この活動をきっかけに、認知症について考え、周囲の人と話したり、認知症の人と一緒に花を育てたり、人・地域・社会との繋がりを持ち、認知症になっても暮らしやすいまちをみんなで作っていく活動です。この活動に賛同する形で、小川もご利用者と一緒にこの花を育てています。プランターは、実際に使用されていた廃棄予定の消防ホースを再利用し、SDGsを意識した持続可能なまちづくりを目指しています。



#### Q1/なぜこのベンチがここにあるのですか。

認知症当事者である安達さん。その安達さんの思いの実現を目指して、さまざまな専門職がチームで関わる活動(チーム上京)に私も参加しています。安達さんとの関わりを通して、認知症の方が住みやすい地域づくりを目指して活動しているなか、「最近、安達さん、歩くことがしんどくなってきて、途中で休めるところがあるといいのだけれど」という話を聞き、上京区でやっている「ベンチ置くだけプロジェクト」とのコラボレーションをヒラメキました。そして、小川にも設置することで、地域の人たちが集う場になれば、という願いを込めて、絵本を用意しながらほっこりできる場を提供しています。

#### Q2/このような素敵なヒラメキは、どこから来ていますか。

福祉と関係ない人と関わることを意識しています。地域にも優しい、自分たちにもメリットがあるような、循環型経済をどのように作っていくのか。柔軟な発想はとても難しいので、今こういったことを学ぶ場に足を運んでいます。

高齢者を支える人が減るなか、デジタルトランスフォーメーションと地域全体で支える体制を作ることが重要になります。コロナ禍で、今まで行っていた多くの行事が中止となっていますが、今だからこそ、地域のさまざまな人たちに抵抗なく小川に足を向けていただく「しかけ」を作っていきたい。そして、コロナが明けたときには、当たり前のように小川に来ていただけるよう、今は私が頑張るしかありません。

コロナが明けたら、地域との場には、是非現場職員と一緒に参加したいです。

#### Q3/このような話を聞いて、近藤さんはどう感じましたか。

施設長がご利用者のためを思って、そんなにいろんなことにチャレンジしていることを初めて知りました。コロナ禍ではあるけれど、屋外であれば、コーヒーの好きなご利用者と一緒に楽しむことができたり、ベンチに座ってきれいな花を見ながら気分転換することができる。いろんなことが制限されているけれど、安全には十分配慮しながら、ご利用者と一緒にできることを楽しみたいと思いました。もっと、施設長の頑張りや思いを職員みんなに発信してほしいです。

#### Q4/中島施設長、最後に一言お願いします。

well-beingの研究者・石川善樹氏によると、自分を受け入れてもらえるコミュニティを3つ持っている人は幸福度が高いそうです。たとえば、職員の場合だと、温かな家庭、働き甲斐のある職場、あとひとつ趣味のサークルか何かがあれば、充実した生活であると言えます。歳をとると、一人暮らしになったり、職場がなくなったりして、少しずつ居場所の数が狭まって、その結果幸せを感じられなくなっていく傾向があります。そういう意味では、ベンチにしる、珈琲男団にしる、受け入れてもらえるコミュニティの数を増やすための試みだと言えるのかもしれない。

※オレンジガーデニングプロジェクトは、小川では今年度から始められた取組で、2021年度の一覧には入っていません。他施設でも取り組まれているところがあります。世界アルツハイマー月間の9月に、オレンジの花を咲かせて認知症理解を広げる運動として全国各地で取り組まれています。

事業拠点に聴く公益的な取組② 修徳児童館

職場リレーエッセイ⑧ 西京事務所

プレイス ～いのちを考える1時間～

【 Theme 】 地域の人々

修徳児童館ではおもしろい取組を行っています。今回は、修徳児童館の中野ひかり児童厚生員に、「プレイス」について話を伺いました。

西京事務所は開所して10年が経ちます。今年度は「わかる」をキーワードにサービスを提供しています。具体的には「ニーズがわかる」ことで、制度に当てはめるのではなく、ご利用者のニーズを起点に支援を組み立てることや「背景（環境）がわかる」ことでICFの考え方に基づいてご利用者を把握すること、そして「基本がわかる」として、支援者として介護技術、相談援助技術、法令知識が備わっていることを目指し、日々励んでいます。加えて近年は、サービスとは直接かかわりのない、**地域の方々**を意識した取組の大切さも痛感しています。これは制度では補えない「人の暮らし」を支援する上でベースとなる取組だと業務を通して感じているためです。

(取組番号 53)

Q1/児童館ではさまざまな取組がある中で、さらにこの取組をすることになったきっかけは何ですか。

児童館は0～18歳までが利用できる施設であり、京都はぐくみ憲章にも「妊娠前からの切れ目のない支援」を目指す」と記されていますが、マタニティさんや妊娠前の方の利用はごく少数でした。

「子どもがいる生活ってどうのことだろう」と自分のライフプランをイメージしたり、自分の身体の気になることを気軽に相談できる場所があれば、マタニティさんだけでなく、妊娠前の“これから”の方たちの利用にも、その後の利用にも繋がるのではと考えたことがきっかけです。実際に私自身もなかなか具体的なイメージを持てなかったこともきっかけのひとつです。



Q2/「いのちを考える1時間」をテーマに、どのような視点で取り組まれていますか。

誰もが持っている“今あるいのち”がとても尊いものだ改めて知ることが大切だと思っています。それが次のいのちを守ることや、子どもへの理解になり、巡り巡って子どもたちにとってより良い社会を作ることにつながると信じています。

そのため、初めて孫を迎える方や、小学生・中高生も自分のいのちについて考え、また自分のライフプランをイメージするきっかけになればと幅広い年代を対象にしています。



Q3/この取組で大事にされていることは何ですか。

人生の選択はさまざまです。それぞれが選んだ道に正解も不正解もないので、押しつけにならないように…。特に妊娠・出産はデリケートな問題であるため、誤解が生じないように心がけています。また助産師さんの専門的な力を借り、想いを共有しながら一緒に創り上げていくことも大事にしています。



人それぞれの人生の形がありますが、理解し合える社会になればいいと思います。児童館には、いつでもあなたのイス(居場所)があるんだよ、ということを伝えていきたいです。ぜひ、PR動画(QRコード参照)を見てください!



花いっぱい運動

他施設・事務所に比べるとまだまだですが、「花いっぱい運動」への参加、「生き方探求・チャレンジ体験」の受入等に力を入れてきました。

犯罪を未然に防ぐ効果の高い美しい景観と環境をつくるのが目的の花いっぱい運動。地域貢献の一環として毎週木曜日に門掃きを行い、事務所西側にはプランターを多数設置し、近隣の方が少しでも気持よく過ごしていただくよう取り組んでいます。結果、介護相談だけでなく、一般の方が気兼ねなく道を尋ねて来所されることもよくあります。

また、「生き方探求・チャレンジ体験」の受入については、職場体験活動を行う中学生を受け入れる事業所に登録し、昨年度初めて3名の生徒さんを受け入れました。今年も6月末から4日間実施しました。福祉に興味をもってもらうだけでなく、事業を通じてさまざまな生活課題に取り組むためには**地域の方**のお力も必要であること(互助、共助の大切さ)をお伝えしているところです。



生き方探求・チャレンジ体験の様子

